

SANDAL WEARABLE IN BOTH DIRECTIONS

Patent Number: JP7236501
Publication date: 1995-09-12
Inventor(s): SHIRAKAWA AKIO
Applicant(s): AKIO SHIRAKAWA
Requested Patent: ☐ JP7236501
Application Number: JP19940053271 19940225
Priority Number(s):
IPC Classification: A43B3/12
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To form a sandal wearable in both directions used in a garden or veranda, etc., so as to be easy to wear and without generating incongruity.

CONSTITUTION: A carapace part 3 is mounted in the center part of a sandal main body 2 in such a way that it can be rotated forward/backward. The upper plane of the sandal main body 2 is opened so as to be set in a porous state, and a hole 7 for drainage/dust elimination is communicated with a porous part 8 on the upper plane, through which water and dust can be eliminated to the side plane of the sandal main body 2.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-236501

(43) 公開日 平成7年(1995)9月12日

(51) Int.Cl.⁶

A 4 3 B 3/12

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

G

B

審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平6-53271

(22) 出願日 平成6年(1994)2月25日

(71) 出願人 591176052

白川 昭夫

兵庫県神戸市垂水区本多聞2丁目6番21号

(72) 発明者 白川 昭夫

兵庫県神戸市垂水区本多聞2丁目6番21号

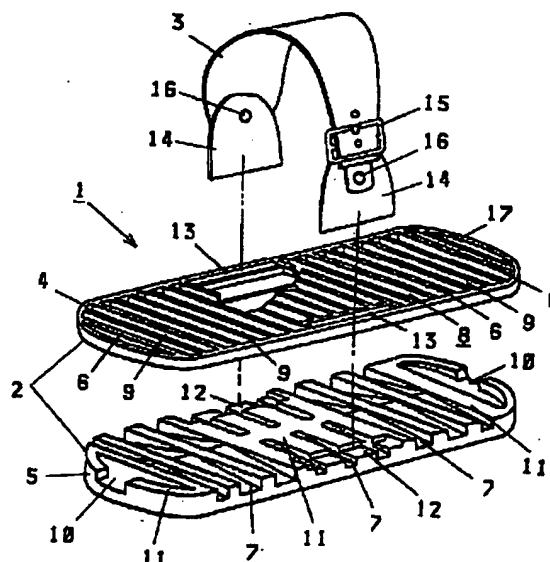
(74) 代理人 弁理士 森本 邦章

(54) 【発明の名称】 両方向履脱可能サンダル

(57) 【要約】

【目的】 庭やベランダ等で履く両方向履脱可能サンダルを、履きやすく、かつ不快感なく履けるようにすることにある。

【構成】 サンダル本体2の中央部に甲被部3を前後に回転可能に取着している。そして、上記サンダル本体2の上面を多孔状態に開孔して、サンダル本体2に排水・排塵処理用孔7を上記上面の多孔部8に連通してサンダル本体2の側面に向けて排水、排塵可能に開孔している。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 サンドル本体の中央部に甲被部を前後に回転可能に取着し、上記サンドル本体の上面を多孔状態に開孔して、サンドル本体に排水・排塵処理用孔を上記上面の多孔部に連通してサンドル本体の側面に向けて排水、排塵可能に開孔したことを特徴とする両方向履脱可能サンドル。

【請求項2】 サンドル本体の上部の中敷部をすのこ状態に開孔し、サンドル本体の下部の基底部に排水・排塵処理用孔をスケルトン状の開孔状態としてサンドル本体の側面に向けて開孔した請求項1に記載の両方向履脱可能サンドル。

【請求項3】 サンドル本体が、甲被保持具、中敷部と基底部を一体に成形したものである請求項1または2に記載の両方向履脱可能サンドル。

【請求項4】 サンドル本体の中央の両側部に甲被保持用の段部を凹設し、この凹設した段部にゴム弾性体の甲被保持具の下部を埋設して装着してこの甲被保持具を介して甲被部を回転可能に取着した請求項1または2に記載の両方向履脱可能サンドル。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、主として庭やベランダで使用される両方向履脱可能サンドルに関する。

【0002】

【従来の技術】 通常、室内とは高低段差のある庭やベランダで洗濯物やふとんを乾かしているが、両手に洗濯物やふとんを抱えて履物の履き脱ぎに身体の向きを変えるのは、面倒なことである。

【0003】 このため、従来から両方向に履脱可能なサンドルの考案が多くなされている。たとえば、中央に1つの甲被を、または前後両方に2つの甲被を、サンドル本体に固定して設けたサンドルが古くから考案されている。しかし、これらは、サンドルにただ単に足が掛かるという程度のもので、歩きにくいものであった。

【0004】 また、サンドル本体に甲被を回転可能に取り付ける考案もなされているが、サンドルを両側から履けるというアイデアだけで、付加価値が乏しく、実用的なものでなかった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 そのため、庭やベランダに放置して履き脱ぎするサンドルを履きやすくし、また庭やベランダに放置されるサンドルが雨水に濡れ、塵埃で汚れやすいにもかかわらず、足や靴下を濡らしたり、汚したりして不快な思いをせずに、両側から容易に履けるサンドルが要求される。

【0006】 このため、カバー付き履物や、取手付き履物収容容器などの考案もなされているが、新たな部材を要してコストが高くなり、かつ余分な動作をとまう欠点がある。

【0007】 そのため、本発明者は、サンドル本体の上面をすのこ状の開孔状態とし、その基底部に底面に達する排水・排塵処理用孔を開孔した両方向履脱可能なサンドルを考案したが、サンドルの底面を開孔すると、底面の開孔部から濡れた芝や雑草等が入って足や靴下を濡らしたり、小石や枯葉などが挟まったりして不快な思いをするものであった。

【0008】

【課題を解決するための手段】 本発明は、上記のような点に鑑みたもので、上記の課題を解決するために、サンドル本体の中央部に甲被部を前後に回転可能に取着し、上記サンドル本体の上面を多孔状態に開孔して、サンドル本体に排水・排塵処理用孔を上記上面の多孔部に連通してサンドル本体の側面に向けて排水、排塵可能に開孔したことを特徴とする両方向履脱可能サンドルを提供するにある。

【0009】

【作用】 本発明のサンドルは、サンドル本体の中央部に甲被部を前後に回転可能に取着していることによって、前後いずれの方向からも履けるものであり、かつ甲被部が回転して足の甲にフィットして履きやすい。

【0010】 また、上記サンドル本体の上面を多孔状態に開孔して、サンドル本体に排水・排塵処理用孔を上記上面の多孔部に連通してサンドル本体の側面に向けて排水、排塵可能に開孔したことによって、サンドルを履いて庭等を歩いても、濡れた芝や雑草等が底面から入って足や靴下を濡らさず、また小石や枯葉などが底面に挟まったりせず、かつサンドルを風雨の当りやすい庭やベランダに放置していても、サンドル本体の上面に落下する雨水や塵埃をサンドル本体の排水・排塵処理用孔から側方へ排出し、足や靴下を汚さずに不快感なく履くことができる。

【0011】

【実施例】 以下、本発明を実施例にもとづいて説明する。図1～図3は、本発明の一実施例を示すものである。サンドル1は、図1のように前後対称形に形成していて、サンドル本体2の中央部に甲被部3を前後に回転可能に取着し、サンドル1を前後のいずれからでも容易に履けるようにしている。

【0012】 上記サンドル本体2は、中敷部4と基底部5を接着剤で接合して形成しているもので、図1のように中敷部4を薄状のほぼ小判状にABS等のフレキシビリティ性を有する半硬質のプラスチックで成形し、その側周辺縁を除いてほぼ全面に一定の間隔で横條の条線6を設けてすのこ状の多孔状態としている。

【0013】 基底部5は、上記中敷部4と外形を同一形状として、ウレタンやEVA等の発泡性プラスチックでやや分厚くクッション性、フレキシビリティ性を有するようにしていると同時に、図1のように中央部分から両側方に向かって分水嶺のように傾斜した排水・排塵用孔

3

7をスケルトン状に開孔させて成形している。

【0014】そして、上記排水・排塵処理用孔7を上記した中数部4の多孔部8の条溝9に連通して、雨水や塵埃を条溝6から条溝9を介し排水・排塵処理用孔7を通じてサンダル本体2の側面から排出できるようにしている。10は、前後面部から排出するための排水・排塵処理用孔である。

【0015】また、上記排水・排塵処理用孔7の間や基底部5の前後端部は、図1のように平坦状としていて、この平坦な中数保持部11に中数部4を当接して所要の接着剤で一体的に接合するようにしている。

【0016】またさらに、基底部5の中央の両側部には少し段落した段部12を設けていて、この段部12に中数部4の両側に開孔した挿入孔13を介して弧状の軟質の甲被保持具14を挿入して装着し、この甲被保持具14に一端側にバックル15を取着した甲被部3をかきめ具16で甲被部3を前後ほぼ45〜60度にわたって回転可能に取り付けている。

【0017】なお、上記中数部4の多孔部9の条溝6や枠部17の頂部は、図2、図3のように断面が半円形状に形成するのが、雨水や塵埃の流れをよくして滞留するのを防止できて好ましく、また中数部4の周縁部を内側に向かって低くしたテーパー状としておくと、中数部4全体が浅い舟底形となって足裏にフィットして履きやすくて好ましい。

【0018】しかして、上記したサンダルを庭やベランダに置いて使用すると、前後の両方から履けるため、両手に洗濯物や干しふとんを抱えていても、容易にサンダルを履くことができる。

【0019】そして、特に甲被部を前後45〜60度にわたって回転できるため、サンダルを履くと、甲被部が回転して足の甲にフィットして歩きやすいものである。

【0020】また、サンダルを庭やベランダに放置して雨水や塵埃がサンダル上に落下しても、中数部の多孔部の条溝から基底部の排水・排塵処理用孔を通して流出し、雨水や塵埃がサンダルの表面に滞留するのを防止できて、足や靴下が汚れるのを防げる。

【0021】特に、サンダル本体が底面に連通して排水・排塵処理用孔を開孔していないため、底面から濡れた芝や雑草、雨水等が入らず、また小石や枯葉等が底面に挟まらず、足や靴下を濡らしたり、不快となることがなく、履くことができる。

【0022】また、サンダル本体の中数部を多孔状態に開孔し、かつ基底部をスケルトン状に開孔しているため、サンダルを軽量化できて、歩きやすくてできるものである。

【0023】さらに、中数部と基底部をフレキシビリティ性を有するABSやEVA等の樹脂で形成し、かつ甲被保持具をサンダル本体に埋設して装着しているため、回転部分を強固にできて、しかもサンダルが前後方向に

4

フレキシビリティ性があることで快適に履くことができるものである。

【0024】なお、段部の甲被保持部を中数部の下面の両側に同時成型して設けて、基底部に設けないようにすると、基底部を作りやすくてできる。

【0025】

【他の実施例】図4は、本発明の他の実施例である。本実施例では、サンダル1の基底部5に開孔する排水・排塵処理用孔7の形状についていろいろ例示したものである。

【0026】排水・排塵処理用孔7としては、その開孔形状を図の7A、7Bで示したように方形状や半円形状、円形状等の適宜の形状にすることができるものである。

【0027】

【さらに他の実施例】図5は、本発明のさらに他の実施例を示すものである。本実施例では、甲被部3の両端にゴム弾性体の甲被保持具14を取り付け、中数部4の中央の両側部の挿入孔13に上記甲被保持具14の下部を挿入し、甲被保持具14の下面側に凹設した段部（図示せず）に接合して、基底部5を装着したものである。

【0028】本実施例でも、上記したように同様の効果を奏するものであるとともに、ゴム弾性体の甲被保持具を介して甲被部を前後に回転できる。そのため、サンダルを脱ぐと、甲被保持具の弾力性によって甲被部はもとの状態の中立位置に戻り、サンダルを前後から履きやすいものである。

【0029】

【さらに他の実施例】図6は、本発明の他の実施例である。本実施例では、塩化ビニル、EVA、ウレタン等のプラスチックを用い、甲被保持具14、中数部4、基底部5を全部一体としてサンダル1を成形したものである。なお、甲被保持具14を、中数部4と一体としたり、基底部5と一体として成形することもできる。

【0030】本実施例でも、前実施例と同様の効果を奏するとともに、ほとんど接着剤を使用しなくてもよくなるため、製造環境の改善がはかれ、サンダルの組み立ても容易となり、かつ製造工程を削減でき、コストダウンがはかれて好ましい。

【0031】以上の実施例では、サンダル本体の上面の多孔部を棧状としたが、井桁の格子状としたり、丸孔を多数開孔したフィルター状としたり、またこれらの多孔部分を円頭状のダボ状に突き出して足の裏をマッサージできるように形成するなど適宜に変更することができるものである。

【0032】また、以上では、4例の実施例について説明したが、中数部、基底部の成形材料を既述のプラスチック材に代えてゴム系の材料を使用したりするなど、本発明の趣旨にもとづいて適宜に実施できるものである。

【0033】

5

【発明の効果】以上のように本発明にあっては、サンダル本体の中央部に甲被部を前後に回転可能に取付したので、前後いずれの方向からも履けるものであり、かつ甲被部が回転して足の甲にフィットして履きやすいものである。

【0034】また、サンダル本体の上面をすのこ状等の多孔状態に形成して、サンダル本体に排水・排塵処理用孔を上記上面の多孔部に連通して排水、排塵可能に開孔したので、サンダルを風雨の当りやすい庭やベランダに放置していても、サンダル本体の上面に落下する雨水や塵埃をサンダル本体の排水・排塵処理用孔から排出し、足や靴下を汚さずに履くことができる。

【0035】そして、特にサンダルの上面に落下する雨水や塵埃を排水・排塵処理用孔で排出処理できるにもかかわらず、サンダルの底面に排水・排塵処理用孔を開孔していないので、底面から濡れた芝や雑草、雨水等が入って足や靴下が濡れたり、底面に小石や枯葉等が挟まっ

6

たりして不快となることなく、両方向履脱可能なサンダルを履くことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例の一部省略した分解斜視図、

【図2】同上の一部省略した側断面図、

【図3】同上の一部省略した縦断面図、

【図4】同上の基底部の他の実施例の斜視図、

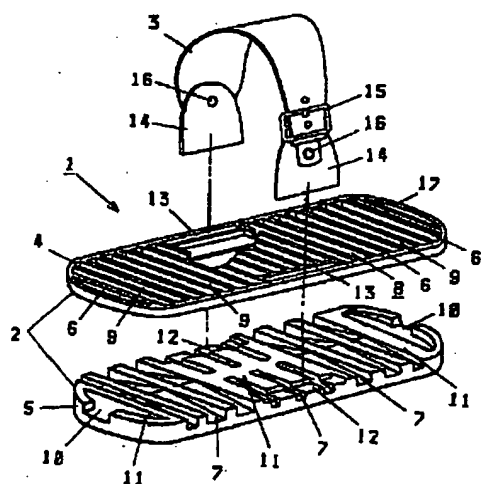
【図5】同上のさらに他の実施例の一部省略した分解斜視図、

【図6】同上のさらに他の実施例の一部省略した分解斜視図。

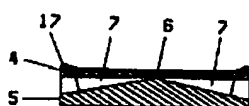
【符号の説明】

- | | | |
|--------|-------------|-------|
| 1…サンダル | 2…サンダル本体 | 3…甲被部 |
| | 4…中敷部 | |
| 5…基底部 | 7…排水・排塵処理用孔 | |
| | 8…多孔部 | |

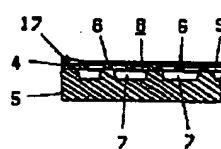
【図1】



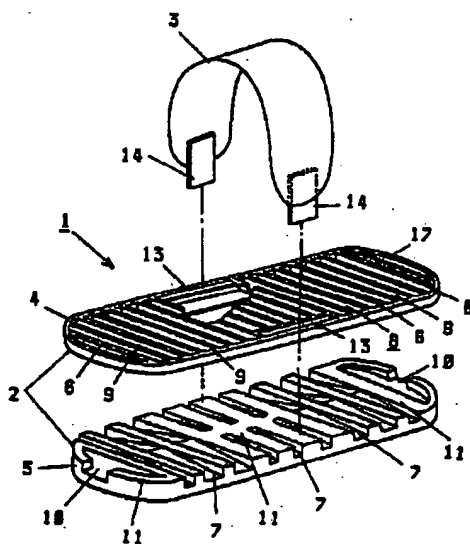
【図2】



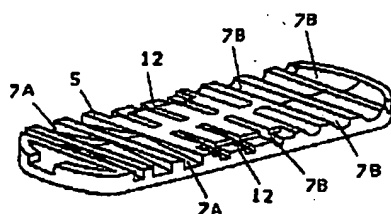
【図3】



【図5】



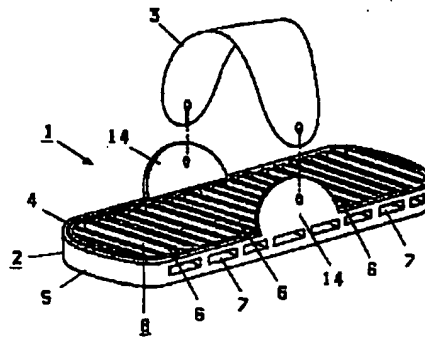
【図4】



(5)

特開平7-236501

【図6】



BEST AVAILABLE COPY